

～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし



第2号 平成26年4月
編集・発行 武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel 0422-60-1833 (直通)
Fax 0422-51-9193 (直通)



武蔵野市の農業への取組みは、小中学校の給食に多くの市内産野菜が使用されていることや、市民参加の農業体験、夏野菜の試食・即売会、秋の農産物品評会での野菜即売会などで、皆様の目に触れているのではないのでしょうか。秋の即売会の売上の一部は、農業委員会より継続して、東日本大震災への義援金にご寄附いただいています。

市では、これからも、安全・安心な農産物に対する市民のニーズに応えるため、人と環境に優しい農業への取組み、地産地消ならではの農産物の提供を促進していくための農業支援、農地の保全を推進してまいります。

武蔵野市長 邑上 守正

第55回東京都農業委員・農業者大会開催

“農地は輝く未来の宝 「活かそう」「守ろう」「役立てよう」”のスローガンで2月27日(木)、昭島市民会館にておこなわれました。この大会において、受賞されました武蔵野市の農業者をご紹介します。また、平成25年度に他の団体より受賞された方も合わせてご紹介いたします。

受賞した賞 (カッコ内は授与団体名)	受賞者名	推薦規定
第53回企業的農業経営の顕彰 (東京都農業会議)	高橋清次さん・典子さん(境)	7年以上、農業を営む年齢40歳以上の者で、農業経営に安定性・継続性があり経営改善計画を有している。
第33回農業後継者の顕彰 (東京都農業会議) ※受賞者の中から、更に東京都知事賞を受賞	後藤幸治さん(境)	年齢39歳以下、農業経営の中心となっている、又は経営分担・作業分担を行うなど家族経営協定について家族内で話し合いが行われ実践している。
第40回農業委員会功労者表彰 農業功労者表彰 (東京都農業会議)	土屋正孝さん(境)	現に農業委員で、通算15年以上在任した者。
	榎本春夫さん(緑町)	年齢60歳以上で、地域農業の維持・発展・振興に貢献している農業者であること。
新規就農者表彰 (公益財団法人 東京都農林水産振興財団)	田中宏茂さん(吉祥寺北町)	平成24年4月1日から1年間の間に新たに農林水産業に就業している就業時の年齢が40歳未満で、将来にわたって農林水産業に就業する意欲があると認められること。
北多摩地区優秀農業者表彰 (北多摩地区農業委員会連合会)	舟木賢治さん(境南町)	年齢45歳以上で、農業経営に創意工夫を行い、農家の生活改善・効率の高い経営を行う者。
産業功労者表彰 農業部門 (武蔵野市)	坂本清一さん(八幡町) 田中裕志さん(吉祥寺北町)	永年にわたり同一の職業に従事し、農業・工業・商業の発展に多大な貢献をされた方



農業者大会で 左から 舟木賢治さん、井口良美農業委員会会長、後藤幸治さん、榎本春夫さん、土屋正孝さん

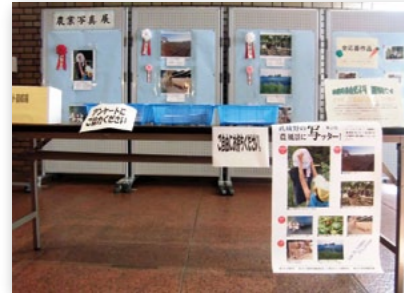
『武蔵野の農風景に写ター』フォトコンテスト

市長賞 「ぼくの畑を守ってね」



フォトコンテストで、23点の応募の中から6作品が受賞されました。10月末から11月末まで市役所およびJA東京むさし武蔵野支店で展示されました。

フォトコンテスト 市役所1階ロビー



農家見学会とフォト講習会 市内農家の畑

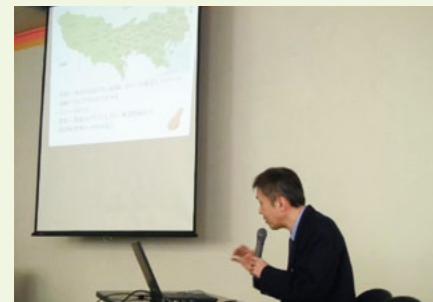


農政ジャーナリストでもあるカメラマンの高橋淳子氏より、構図の採り方、生き生きした表情をとるためになど、11月16日に農家見学会とフォト講習会を開催しました。

平成26年度の「武蔵野の農風景に写ター！」フォトコンテストに是非ご応募ください。写真は、平成25年8月から平成26年8月を撮影期間とします。募集の詳細は市報・市HPをご覧ください。

第43回全国農業経営者研究大会「都市農業分科会」武蔵野市で開催

2月5日・6日に開催された全国農業経営者研究大会の2日目、武蔵野市の学校給食への取り組み事例を発表しました。都内の農業者のほか、遠くは青森や大阪などから農業者が参加し、市内の畑から生産者の声を伝えました。武蔵野市の公立小・中学校の給食提供数は、小学校12校（約5,500食）中学校6校（約2,000食）で、北町調理場、桜堤調理場および単独調理校で調理しています。学校給食に市内産農産物を利用する割合は、平成24年度28.8%と、都内では高い水準にあります。参加者からは、「吉祥寺は住みたい街ナンバー1と呼ばれ都会のイメージだったが、多くの農地があることに驚いた」「参考にしたい」などの感想がありました。



武蔵野市給食・食育財団の高木食育係長が市の取り組みを説明



実際に畑を見ながら、生産者の取組みを伝えました



フレッシュサラダ作戦

市内産の朝取り新鮮野菜を安価で提供するフレッシュサラダ作戦は、11月23日から12月9日まで計4回開催されました。延べ55農家から、67品目2,820点の出荷がありました。販売は、毎回大盛況で寒い中を早くからお待ちいただいた皆様、ありがとうございました。

境南ふれあい広場公園にて▶



平成25年度農産物品評会の報告

武蔵野市の農業者は、年間を通じ、東京都や市内の品評会に農産物を出品し、生産技術の向上に努めています。今年度の各品評会での上位入賞者をご紹介します。

第42回東京都農業祭 11月3日（明治神宮宝物殿前広場）

特別賞	受賞者名	種類
明治神宮宮司賞	大坂新一さん（関前）	さといも
JA東京中央会賞	櫻井道久さん（関前） 竹内昭博さん（境南町）	キャベツ 柿
内田農業振興会理事長賞	大戸正勝さん（関前）	ギンナン

武蔵野市農産物品評会 11月9日

最優秀賞受賞者名	受賞品目
櫻井道久さん（関前）	青首だいこん・ばれいしょ にんじん・かんしょ
井口秀男さん（関前）	栗 ※5年連続で同一品目最優秀賞のため、特別賞も併せて受賞
吉野政男さん（境南町）	みかん類
櫻井真二郎さん（関前）	ゆず
高橋清次さん（境）	きゅうり・なす
井口良美さん（八幡町）	聖護院大根
榎本清さん（関前）	ブロッコリー
田中恒男さん（吉祥寺北町）	さといも
榎本常男さん（関前）	花き
花坂和夫さん（境南町）	キウイ
後藤正昭さん（境）	うど
井口義一さん（関前）	かぶ・柿
田中茂雄さん（吉祥寺北町）	ながねぎ
井口市郎さん（八幡町）	キャベツ
坂本和人さん（八幡町）	こまつな

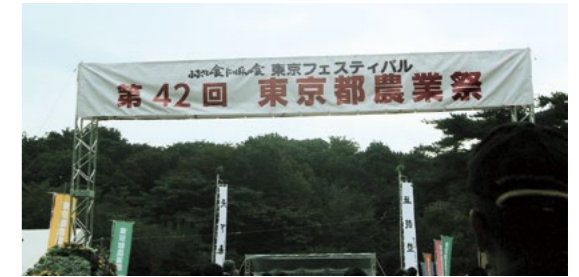
うど品評会 2月14日

市内のうど栽培農家が、今年の出来ばえや技術を競い合い、市民の皆様とうどの即売会（JA新鮮館）を行う日です。東京は朝から雪という天候にもかかわらず、ご贈答や早春の香りを求めこの日を楽しみにしていただいている方など、大勢の方で賑わいました。東京都知事賞は後藤正昭さん（境）のうどでした。後藤さんは、「東京うど出荷改善共進会」でも、優秀賞を受賞しました。

イベントカレンダー（26年度上半期）

イベント名	時期	場所
栽培講習会 市民農園26年度使用開始者のための初級講習	4月5日（土） 講師：福田 俊 氏 （東京農業大学エクステンションセンター講師）	武蔵野市役所 会議室
武蔵野の農風景に写ター！ フォトコンテスト作品募集	6月中旬から8月15日まで 撮影期間は、昨年の夏から今年の夏までです	市役所生活経済課で 応募作品受付
夏野菜品評会 展示と試食会	7月初旬	市役所1階ロビーと 正面玄関前
ほおずき市・野菜の即売会	6月下旬から7月上旬の月曜日	市役所 正面玄関前

※3月現在の予定です。詳しくは市報・市HPでご確認ください。



東京都農業祭開催



東京都の審査員が厳正に審査



大盛況の即売会



東京都知事賞受賞のうど



市内には農家が営む約40箇所の直売所があり、共同直売所として、JA新鮮館があります。第2号では、三世代にわたって農業経営をされている方とこれからの都市農業にまい進する生産者を訪ねました。

高橋喜一さん・清次さん・宏明さん

85才の喜一さんは、130年続く農家の4代目。人の畑も熱心に研究、採れた野菜をオート三輪車に山積みにして毎朝築地市場へ運んだ活気のあった20代。荷が重すぎて車が転倒した事もありました。30代に趣味が高じて始めた「つり掘り」は、昨年50年の歴史を閉じました。今では喜一さんと5代目清次さんが見守る中、お孫さんの6代目宏明さんが立派に後を継いでいます。



※喜一様は、取材後の2月17日に急逝されましたが、生前のご功労を称え、記事をそのまま掲載します。ご冥福を心よりお祈りいたします。

境5丁目在住 高橋さんご家族

田中宏茂さん

新規就農をして早二年となり、宏茂さんは、江戸東京野菜の発祥地の軟化うどを両親と一緒に栽培されています。農業の大変さ・難しさを感じ、野菜の付加価値をどうあげていくかの課題に取り組んでいます。また、園児・児童の芋掘り体験、ほおずきの栽培・販売なども行っています。



吉祥寺北町3丁目在住 田中宏茂さん

《援農ボランティア閉講式》

平成25年度初めての試みとして、武蔵野市から、東京都の援農ボランティア養成講座「東京の青空塾」に5名の実習生を送出し、12月11日、5名全員が、規定の実習数を充たし、無事、援農ボランティアとしての認定証を授与されました。実習農家からは、「夏の暑い日に朝7時から草むしりを元気にやってくれて、助かった。皆真面目に取り組んでくれた。」と、実習生からは、「もっと続けたい」との感想がのべられ、実習生は、引き続き援農ボランティアとして活動をしていただけることになりました。平成26年度も募集を行う予定です。詳しくは市報や市HPでご確認ください。

東京都農業祭で、野菜の見分け方の実地研修▶



編集後記

武蔵野市内では、少量多品目の農産物を生産し、公立小中学校の学校給食でもたくさん利用されています。農地面積の減少や農業従事者の高齢化などの厳しい環境の中にあいながらも、農業活性化のために頑張っています。農業委員会だより第2号も、関係各位および編集委員・事務局皆さんのご努力・ご協力により発刊できました。皆様に感謝申し上げます。これからも市民と農業者をつなぐ様々な話題や情報を提供できるよう努力してまいります。

編集委員/榎本 一宏・櫻井真二郎・田中 恒男・田辺あき子・土屋美恵子

農業委員会だよりの感想や今後取り上げてほしい記事などありましたら、農業委員会事務局 Tel. 0422-60-1833 までお寄せください。